

授業概要

日本語を深く知るためには、言語の本質や役割を理解し、個々の分野である音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論、さらにその周辺領域を通して考える必要がある。日常の中で目にしたり耳にしたりする情報から日本語の面白さに気づき、それがどのような観点から研究され、説明がつくのか、身近な問題を取り上げて考察していく。そして、調査および考察した結果を発表できるように指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション / 音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論とは？ / さまざまなレトリック（修辞法）
第2回	キャッチコピー・歌詞 などに見られるレトリック
第3回	コマーシャル（CM）の中にみられるレトリックとその作用
第4回	コマーシャル（CM）の分析
第5回	語用論のいろいろ～ことばと身体～
第6回	表現効果を解明する～ビジュアルエイドと修辞学～
第7回	「私はAです」と「私がAです」・「おかしな話」と「おかしい話」・「元気の印」と「元気な印」の違いは？——各論からのアプローチ
第8回	ものの読み方・数え方／表現による意味の違い
第9回	新語・流行語・キャンパス語・若者言葉・メール表記などの学問的考察 ——各論からのアプローチ
第10回	いろいろな調査方法と調査結果の表し方
第11回	学生による調査結果の発表
第12回	学生による調査結果の発表
第13回	類義語と対義語・同音異義語と表記・多義語と単義語——各論からのアプローチ
第14回	「お笑いネタ」の日本語学的分析——各論からのアプローチ
第15回	総まとめ
第16回	レポート提出

到達目標

- ・言語の本質や役割を理解するために各論研究や資料収集を行い、学生自身で分析し、新たな課題を見つけしていくことを目標とする。
- ・そして、自分なりの検討を加え、意見を述べる力を身に付けていくことを目標とする。

履修上の注意

この授業は学生主体の向上心を持って積極的な態度で授業に参加すること。質問等は随時受け付けるので、授業中の私語は慎むこと。履修者の理解度に応じて、復習や知識の補充等を行う。あなたが抱いた疑問はみんなの疑問かもしれません。周囲の人に聞かずに、みんなで共有し、授業内で解決していきましょう。

板書やパワーポイントはカメラで撮らず、自分の手で書いてノートにおさめるようにすること。

予習復習

学生による調査結果の発表を行う日がある。それに向けて準備を行い、発表の際には履修者全員分にハンドアウト（レジュメ）を配布すること。

評価方法

- ・調査結果の発表40% レポート40% 授業内での課題の取り組み20%
- ・遅刻2回で欠席1回とみなす。
- ・3分の1以上欠席した受講者は原則として「未受験」扱いとし、成績評価の対象としない。

テキスト

必要な教材や資料は適宜配布する。